

第IV章 宮崎県宮崎中央農業協同組合

1 調査地区パターン3 (農協・コントラクター等が自ら収集し、販売する場合)

1 地区名 宮崎中央農業協同組合

2 調査者

宮崎県中部農業改良普及センター
畜産係 主任技師 大山佐喜子

3 地域の概要

宮崎中央農業協同組合(以下JA宮崎中央)は、県のほぼ中央部に位置し、宮崎市、清武町、田野町、佐土原町、高岡町、国富町を管内としている。東に太平洋を望み、南から西に鰐塚山系を経て九州山脈に連なる広大な平坦部を有する地域であり、東西に30km、南北に42kmの広がりを持ち、面積については約775km²と県全体の約10%を占め、管内人口については、約40万人と県総人口の約30%を占めている。

気象については、太平洋に沿って流れる黒潮の影響で冬期も温暖な気候に恵まれ、

日照時間も多く、農業の振興を図る上で有利な気象条件を有しているが、一方では、夏から秋にかけて台風や集中豪雨等の災害による被害も多く、厳しい自然条件も見うけられる。

JA宮崎中央の組合員数及び農家戸数、品目別販売額は表3-ア、イのとおりである。

本店・各支店の所在地状況

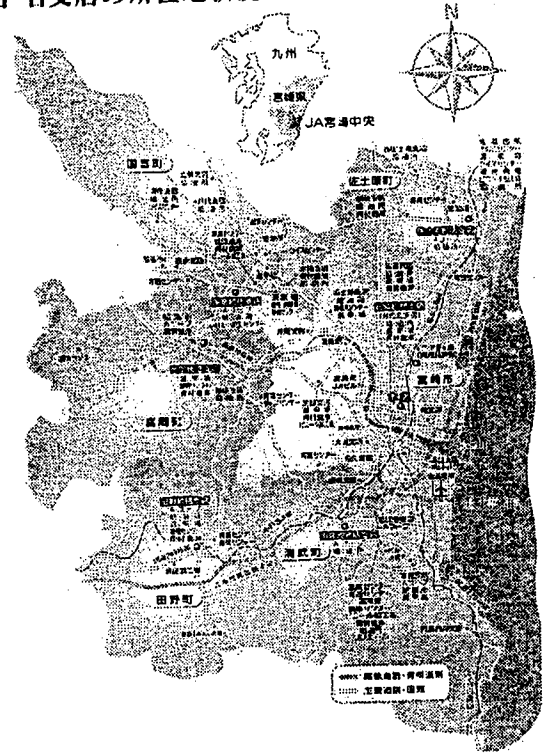


図1 位置図

表3-ア JA宮崎中央組合員数及び農家戸数の状況

(単位：人、戸)

JA宮崎中央組合員数							農家戸数
宮崎	南宮崎	田野	佐土原	高岡	国富	合計	
7,140	10,360	1,730	2,932	2,046	5,678	29,886	23,310

表3-イ JA宮崎中央の品目別販売額

(単位：千円)

米穀類	野菜	果樹	花卉	特産	畜産	合計
1,720	12,418	1,109	1,144	310	5,069	21,770

4 国産稲わら確保への取組経緯

J A宮崎中央では、生産調整が拡大される中、地域に適した作物として飼料イネに着目し、平成8年から試験栽培と家畜への給与試験を行い、高収量で嗜好性の高いことを実証した。その後、年次毎に飼料イネの作付面積は拡大していたが、平成12年3月に管内で「口蹄疫」が発生したことを受け、国産粗飼料の確保という面から更に飼料イネの生産を推進するようになった。

推進の結果、飼料イネの作付面積は拡大したが、中には畜産農家と飼料イネ供給の契約のできない耕種農家が増える状況も発生した。このような状況を改善するために、耕種及び畜産農家に飼料イネ稲わら利用についての意向調査を行い、飼料イネ稲わらをJ Aが収集・販売した場合、需要と供給が成り立つことを確認した。この結果を受けて、平成13年に飼料作物収穫・調整機械を導入し、本格的に飼料イネ稲わらの収集・販売を開始した。

飼料イネ稲わらの収集については、宮崎支店、佐土原支店、国富支店の管内で行っており、販売についてはJ A管内全域を対象に行っている。J Aが収集・販売を実施するようになったことで各市町単位では流通できずにいた飼料イネ稲わらがうまく流通するようになっている。

5 収集体（農協・コントラクター）の概要

(1) 代表者・事務局

代表者 代表理事組合長 森永 利幸

事務局 本店 農産指導課

(2) 組織の構成

飼料イネ稲わら収集は、J Aのコントラクター事業として位置づけているため、経理は本店農産指導課が担当している。契約農家の取りまとめと各圃場毎の梱包数の報告は、各支店の担当者が行い、オペレーターは各支店のJ A青年部で構成されている。(平成15年オペレーター：宮崎支店29名、佐土原支店18名、国富支店17名)

(3) 機能（決定事項）

本店農産指導課から示された（案）を各支店のオペレーター組織（稲わら確保部会）で検討し、決定する。

(4) 畜産とのかかわり

収集した飼料イネ稲わらは、すべて畜産農家に供給されている。一部、家畜のエサとして供給できないようなB品については園芸の敷わらとして供給している。

飼料イネ稲わら収集にかかる費用としては、刈り取りに2,000円/10a、反転・集草・梱包に30円/kg、搬送に10円/kgかかるが、これはすべてオペレータに対する労働費として支払われる。刈り取りをしてもらう契約農家は、飼料イネ稲わらをすべて譲渡することが条件となっており、費用の負担は発生しない。

6 収集作業体系

表6 収穫作業体系

作業名	時期	作業分担	使用機械	備考
モア収穫	8月下旬～12月上旬	オペレーター	フレールモア	JA所有
反転・集草	〃	〃	テッダー、レーキ	〃
梱包	〃	〃	自走式ハーベラー	〃
運搬	〃	〃	トラック	オペレーター所有
保管	8月下旬～翌8月	JA	屋根付き倉庫	

収穫、反転・集草、梱包、運搬まですべてオペレーターが実施し、収穫から梱包までの作業に必要な機械（トラクターは除く）についてはJA所有のものを利用する。

運搬する際のトラックについてはオペレーター所有のものを利用する。

保管については各支店の倉庫を利用しており、屋根があるためシート等で覆うことは行っていない。

保管された飼料イネ稲わらは、畜産農家が直接取りに行くか、配達してもらうかのどちらかであるが、自己取りの場合は配達運賃分値引きがある。

7 収集面積と収集量

表7 収集面積と収集量（平成14年）

収集面積 (ha)	収集量 (kg/10a)	総収集量 (トン)
71.5	588.3	420.6

8 稲わら収集コスト

表8 稲わら1キログラムあたり収集コスト (単位：円)

項目	金額	備考
収穫調製	資材費	4.5 トワイン等
	光熱動力費	1.3 ガソリン代、電気代等
	農機具費	7.0 償却費、修繕費、賃借料等
	労働費	40.0 刈り取り2,000円/10a、搬送10円/kg 反転・集草・梱包30円/kg
	運賃	8.0
合計	60.8	

オペレーターの賃金をできるだけ支払えるように試算している。こうすることでオペレーターの確保もでき、収量により賃金が変わるため、収集する圃場の飼料イネの栽培指導もオペレーターが行うような環境ができています。

9 稲わら収集の条件

J Aと飼料イネの供給契約を結んでいる農家であれば、収集の対象農家となるが、2 t車が入らない圃場、あきらかに飼料イネが生育していない圃場、ぬかるみがひどく収穫・調整機械が入らない圃場は収集対象から外される。

10 販売について

(1) 販売先

J A管内畜産農家 86戸 (繁殖経営 77戸、一貫経営 9戸)

J A肥育センター 4農場

表10 稲わら販売農家戸数

宮崎市	清武町	田野町	佐土原町	高岡町	国富町
18	2	1	43	2	20

(2) 販売条件

価格 倉庫で自己取りの場合 35円/kg (税別)

農家まで配達の場合 40円/kg (税別)

荷姿 9kg梱包



写真1 収穫作業



写真2 反転・集草作業



写真3 梱包作業

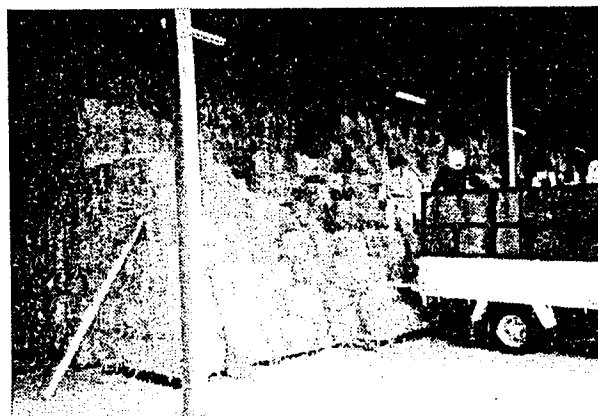


写真4 保管された飼料イネ稲わら